

## 第6回 新泉・和泉地区小中一貫教育校設置協議会会議録（要旨）

会 議 名	第6回新泉・和泉地区小中一貫教育校設置協議会
日 時	平成23年5月23日（月） 午後2時～4時
場 所	新泉小学校 家庭科室
出 席 者	協議会委員23名（欠席6名） 学識経験者（選定委員会員）2名
区 関 係 者	営繕課長 施設整備担当課長 統括指導主事 学校適正配置担当課長 教育改革推進課長 関係職員
次 第	1 新泉・和泉地区小中一貫教育校建築基本設計業務の概要について 2 新泉・和泉地区小中一貫教育校の校舎建設等に係る基本設計事業者の選定結果について 3 その他
資 料	（資料1）新泉・和泉地区小中一貫教育校基本設計業務の概要（抜粋） （資料2）新泉・和泉地区小中一貫教育校の校舎建設等に係る基本設計事業者の選定結果について （資料3）協議会の今後の予定について （資料4）協議会委員名簿

会長	これから第6回新泉・和泉地区小中一貫教育校設置協議会を開催いたします。
教育改革推進課長	<p>&lt;配付資料の確認&gt;</p> <p>新年度になり、新委員の方もいますので、委員の皆様より自己紹介をお願いします。また、3月に行われましたプロポーザルで、業者選定委員会の委員長をしていただきました首都大学東京副学長の上野先生と、副委員長の杉並区都市計画審議会委員の村上先生においでいただき、アドバイザーとして設計に関するアドバイスをしていただく予定となっています。</p>
会長ほか出席委員	以下自己紹介
選定委員会委員長	首都大学東京の上野と申します。プロポーザル・コンペのときの審査委員長をやらせていただきました。よろしくお願いいたします。
委員	私も前回のプロポーザルのときの副委員長を上野先生のもとでやっておりますが、建設協議会等、他校でいろいろかかわってきております。よろしくお願いいたします。
教育改革推進課長 ほか事務局	以下事務局自己紹介
日本設計	今回、設計をやらせていただきます日本設計と申します。以下自己紹介
教育改革推進課長	<p>新泉・和泉地区小中一貫教育校建築基本設計業務の概要をご説明します。</p> <p>&lt;資料1説明&gt;</p> <p>プロポーザル実施要領に添付していますが、小中一貫教育校のコンセプトは「学校、家庭、地域が力を合わせ、児童生徒の夢を実現するための力を伸ばす。」です。</p> <p>教育方針は、3点。1点目は9年間を見通した一貫した指導を展開し、児童生徒一人ひとりの学力や体力を着実に向上させ、豊かな人間性をはぐくむ。2点目は教員の相互理解、創意工夫を活かし、各種調査や学校評価の検証に基づいた教育活動、指導法の工夫・改善を進めていくこと。3点目、家庭、地域との連携、協力を一層深め、地域と協働した学校づくりを推進するということです。</p> <p>指導の重点は、小中一貫したカリキュラムによる連続した学習指導の展開、児童生徒のふれあいを中心とした豊かな人間性の育成、運動の日常化による体力の向上、社会への貢献活動、地域との協働による教育活動の一層の充実。以上を基本に、設計業者のプロポーザルで、どういう学校にしたいかというものを提案していただきました。</p>

	<p>資料2の2枚目に、設計業者から区の一貫教育校のコンセプトをもとに、「繋がり」をテーマに、「児童・生徒を繋ぐ」。「教員を繋ぐ」。「地域を繋ぐ」という、3つの「繋ぐ」という観点からご提案をいただきました。本日、協議会として、杉並区のこの地域としてどういう学校にしたいか、これらを踏まえてまたご意見等をいただければと思っております。資料2は、3月26日のプロポーザルでの選定結果等となります。</p> <p>選定事業者の日本設計さんの主な事業は、広島県府中市にあります公立小中一貫校の府中学園、栃木県庁舎、北海道洞爺湖サミット国際メディアセンターなど、さまざまな建物の設計業務に携わっています。</p> <p>具体的な選定経過は昨年12月28日に公募要領を公表し、2月8日に締め切り、19業者の応募があり、企画提案の一次審査には17者から提出がありました。6名の委員で書類選考のうち4者に絞り、3月26日、70名以上の方がお見えのなか、公開プレゼンテーションにより最終的に選定いたしました。</p> <p>裏面に、その審査の内容、結果、参加いただきました業者の名前を掲載しています。</p> <p>今回、プロポーザルで審査委員長を務めていただきました首都大学東京副学長の上野先生に、最近の学校改築ですとか、当日の審査内容や講評などのお話を、同じく審査員を務めていただきました都市計画審議会委員の村上先生にもお話をいただきたいと思います。</p> <p>上野先生に過去の学校改築などをお話いただいた後、今回のプロポーザルについて選定の視点についてお話をさせていただきます。日本設計の方から具体的にコンセプト等説明をしていただき、両先生から、どういう視点で日本設計さんの提案を選んでいただいたかということ、また、今後、設計を進めるに当たりどういう視点に注意していくのかなどお話をいただいて、その後、意見交換をさせていただきます。</p> <p>それでは、上野先生、よろしくお願ひします。</p>
<p>選定委員会委員長</p>	<p>私が考える最近の学校の計画課題というテーマでお話します。あくまでも私の考えで、今度つくる学校は皆さん自身がどうお考えになるか、参考としてお話をします。＜映像を見ながら＞</p> <p>幾つかのテーマでお話をします。大事なことのひとつに、「ラーニングセンターを中心とした学校」というのがあります。学校は教える場であり、学ぶ場です。児童生徒がみずから能動的に学ぶ力をどうつけるかというのがこれからの学校の課題の一つです。</p> <p>ラーニングセンターという真ん中の巨大な空間に対して、教室が取り巻き、その教室が全部ラーニングセンターのほうに向かって開いていま</p>

す。この空間を中心に教室が全部取り巻いて学校をつくっています。これは「学ぶ場」なんです。ここは図書室でもありコンピュータ教室でもあるし、視聴覚教室でもあります。1カ所に集めて学校の中心的な場というコンセプトです。学校の図書室やコンピュータ教室、視聴覚教室など、一体何だろうと基本的なことを考えて、21世紀の後半までもつ学校をつくっていく。

それから教える場と学ぶ場がバランスよく学校の中に機能していることがこれからの学校では大事になると思います。

日本の学校では黒板があり、黒板に向かって児童が一斉にお行儀よく真っすぐ向いて、「わかりましたか」という、それが今までの学校です。その今までの学校の姿は本当にそれでいいのかを考え直していただきたいと思います。

すべてのクラススペースがラーニングセンターに向かって開き、学びのためのツールがいっぱい詰まっている場所、ラーニングセンターが学校の真ん中、中心にあるのがこれからの学校の姿ではないかと思います。

先生がつくった教材を教員同士、児童生徒が共有します。日本の学校では、教室でクラスティーチャー、教科担任のティーチャーが自分の授業のためにいろんな教材を日々つくる。その教材は日本の学校ではそれを先生方で交換したり、共有していますので、これは教師の教材共有センターです。それをいつも児童生徒、学習者がセンターに来れば閲覧できる。こういうことを一つのヒントとしてお考えいただければと思います。学校のラーニングセンターというのは定着を始めています。開かれたメディアセンターです。

私の設計した若葉台小学校は学校の真ん中に大きいラーニングセンターがあります。四半世紀前になりますが、小山小学校という学校も当時からコンピュータスペースをみんなに開放しています。能力のある子は、自分でプログラミングができるような子どもにどんどん育っていきます。教えることは大事ですが、みずから能動的に学ぶ環境をつくってあげることが、学校の非常に大事な役目です。

ある中学校ではいろんなところに教科のラーニングセンターがあって、そこには教科のいろんなメディア、学ぶツールやコンピュータが置いてあり、ネットでつながっています。

大洗にある学校の理科のセンターではいろんな実験教材や、学ぶツールや、先輩がつくったレポートなどがあってここに来ると理科のことを勉強する場所だということを環境の側から子どもに訴える。こういうことがこれからの学校では大事なことです。

私が日本設計の人たちと一緒にやった下関の町外れにある学校ですが、町民図書館と学校のラーニングセンターを一緒にして学校の真ん中に置いてあります。お母さんがいつもここに本を借りに来る。この学校は土日もあいています。最近できた目黒区の中央中学校では、図書とコンピュータが一体的になっています。

問題提起をさせていただきますが、学校に黒板は必要かということです。ある学校で黒板は全部やめて、すべての教室に全部ホワイトボードとプロジェクター（実物投影機）にしました。学校の先生は設計当時、猛反対でしたが、先生も生徒も「これはすごい便利でわかりやすい」と、あっと言う間に定着し、半年後8割の授業で使われるようになりました。10年20年後を見据えていくことも必要です。

ある京都府立の小学校では、ラックにノートパソコンを収納、収納中は充電、必要なときに取り出して教室で使用しています。多機能な教室になります。教室って一体何でしょうか。教室の機能、広さ、子どもの過ごし方、体の大きさによって異なると思います。ある学校は、低学年と3、4年生と高学年の設計を全部変えました。低学年は先生とともに教室で暮らす時間が長いので、教室の中を充実させ、学年がみんなで集まれる場所の2つで設計しました。3、4年生は、比較的実習活動、グループ展開、クラスとクラスと一緒に協働したりする合同学習がふえ、高学年は、少人数で勉強をするグループと先生の授業を受けるグループありますので、学年によるふさわしい環境にしています。

オープンタイプの教室では音漏れも考えて設計する必要があります。

また低学年は、すぐ自分の庭に出られる接地性や学年が集まれる場所を学年のスペースのところにつくるなど、1年生から6年生まで全部一律ではないので建築家として神経を使って設計すべきではないかと考えます。

最後に小中一貫校の話をしてします。私の研究室でいろんなことを調べていますが、小・中・高とはっきり分けていた考え方に小中一貫または中高一貫など新しいシステムがまじり始めています。小学校と中学校にはそもそも先生の文化に違いがあります。

「中1ギャップ」といわれていますが、中学になると急速に不登校がふえます。また品川区の小中一貫校での調査では「10歳の壁」がありますが、4年生ぐらいで自尊心とか自信が大きく変わります。

中1ギャップと10歳の4年生のときの壁とは、教育心理学的にもいろいろ言われています。つまり、1年から6年まで同じだとか、小と中と連続しているとは限らないんです。この「10歳の壁」と「中1ギャ

ップ」を覚えておいてください。

小学校と中学校の文化の違いと、もう一つは、小学校は学級担任制で、中学校は教科担任制です。自治体によっては、小学校5年、6年で教科担任に力を入れている学校も公立で出てきています。小中一貫校は全国的に非常に見直され、取り組みがかなり広まっています。校舎を初めから一体的につくる、既存校舎を利用したり、校舎の隣接している学校を利用したり、いろんなタイプがあります。

学年の組み合わせも、4と5・6・7の3と8・9の2と、学校の中を3段階ぐらいに分節する、4年生までを1つの仲間にして、5年生ぐらいからどんどん教科担任制でいく、8年超えたら、一人ひとりの個性とか能力を伸ばすようにしていくなど全国的に取り組まれています。

問題は授業時間の違い、小学校45分授業、中学校が50分授業のため、いろいろな工夫をして教育プログラムを考えておく必要があります。どういうシステムになるか見きわめて設計することが大事です。体格の違い、学習形態も違い、学習内容のレベルの違いを考えてそれに合わせて学習空間をどううまく設計していくことも大事なことです。1年生、2年生、3年生などは、割とホームルーム教室周りでの授業が多いので、先生と一緒にクラスで落ちついて、一人ひとりちゃんと目をかけて学習のくせをつけることから始まります。できるだけロアーは教室周りの格好を丁寧に、大事に、伸び伸びと設計してあげることが大事です。

ミドルは、大体4・3・2のシステムの学校では、5年生以上は教科担任制になります。つまり、国語や算数は、場合によっては中学校の数学の先生が教え、また小学校の先生と中学校の数学の先生でティーム・ティーチングを組んで、両方の観点で算数を教えます。1年から9年まで体格も違うし、学習内容も違うし、学習形態も違う。使う教材もレベルの高さも全然違います。オープンスペースみたいなものを要所に配置していくのも効果的ですが、段階に応じて、どうやってうまく設計してあげるかというのが小中一貫校の非常に大事なことです。

4年生までは自分のクラス担任の先生に授業を教わり、音楽とか図工だけは専科の先生に、5年生、6年生は中学校の先生が専門的な授業のサポート入ります。8年生、9年生になると、もう教わる先生の数が格段にふえていくところも小中一貫校の特色です。小学校の先生と中学校の先生は協働していくことが非常に大事です。職員室も小、中の教員室を一緒にして、校務分掌ごとに職員室のグルーピングをちゃんと整えるなど、小中一貫校の職員室の設計は比較的大事です。小と中が協働して、教科の相乗り、校務分掌として全体を小中一貫的なプログラム体系にす

	<p>るために教師集団のチームワークが非常に大事になります。</p> <p>学年、体格の違いを考えて、領域をうまく重ねながら学校をつくっていくことも大事なことだと思います。</p> <p>学齢段階、特性をどうやってうまくとらえて設計してあげるかということが小中一貫校の設計のなかなかおもしろいところだし、難しいところでもあると思います。</p>
教育改革推進課長	<p>先生、どうもありがとうございました。杉並区では、昨今建てられた学校にはラーニングセンター的なものを真ん中に置くようにしています。</p> <p>ICTの関係をどうするかはこれからの課題であり、いろいろ議論していただきたいと思います。</p> <p>教室の大きさも課題となっています。公立学校はある時は2学級、ある学年は4学級となったりしますので、どのように考えながらよい学校づくりをしていくのか、いろいろお話をいただければと思っています。まことにありがとうございました。</p> <p>3月にプロポーザルで選定していただくに当たり、全体的なプロポーザルの視点等について、両先生から一言ずつご紹介をよろしく願います。</p>
選定委員会委員長	<p>公立の学校は大変大切な地域の財産ですので、いい設計者に設計してもらいたいために、設計者からいろいろ提案をしてもらおう。その内容で、この設計者ならばこの学校の設計を任せられるというふうにして、プロポーザル協議で設計者を選ぶようにしていただいたことが、私は杉並区としてはものすごい前進だと思います。今回、いろいろ期間的に苦しい面があったので、なるべく期間的な余裕を持ってプロポーザル・コンペティションにしていきたいというのが私の一つの希望です。</p> <p>17者から提案があって、いい提案が多かったと思います。結果として4者を残し、ヒアリングの結果、この設計者は圧勝でした。非常に信頼感があるし、提案内容も着実ですし、小中一貫校を含めて、学校建築ということをよく勉強しておられるので、何の不安、不満もなく、この設計者をほぼ全員一致で選びました。小中一貫校のいろんな課題に取り組み、いいものをつくっていただければと思います。</p>
選定委員	<p>先ほどから上野先生にいろいろなお話を伺っているんですが、この小中一貫校をプロポーザル・コンペにすることが急に決まったこともありまじ、施設が一体型というのは杉並区になかったもので、小中一貫がどういう運営でやっていくのかまだ煮詰まっていない状況でコンペに入ったと思います。今、上野先生からいろいろな考え方をご紹介いただきました</p>

	<p>ら、課題がいっぱいあって大変そうだなと思われたと思いますが、まだ整理されていない状況がたくさんあって、これから皆さんと議論されながらやっていかれるのだと思います。</p> <p>ただ、今回、コンペをしたので、敷地の持っている特徴、あるいは中学校がもう施設として存在している中で、どんな土地利用を考えたらいいのかなというので、17者、いろんな案がございました。運動場だけ考えると、もう少し小学校、中学校が区分できるような、校舎が東側にあったらいいなとか、いろんな考えがあって、では、それをやった場合に、校舎の日照が悪くなるよねとか、近隣に与える影響が多くなるよねとか、いろんな案を同時に見て、100%満足できる完璧な案はないので、その敷地の可能性と持っている敷地の限界みたいなものも皆さんの頭はかなり入ったかなと思います。</p> <p>それで、いろいろ議論した中で、今回の日本設計さんの案でいきましょうと決まったので、大まかな筋、ストーリーはこれでいくという覚悟の中で、次に小中一貫のメリットをどうつくっていくかという議論に入っていくてもいいと思います。そうした議論の中で、あるいは多少校舎の変更とか、うまくコーディネートされればいい状況になると思います。建築というのは100%望むようにはいかなくて、いつも譲り合いなので、その辺をうまく議論していただけたらというのが感想です。</p>
<p>教育改革推進課長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは日本設計さんから、プロポーザルについてご説明ください。</p>
<p>日本設計</p>	<p>日本設計です。プロポーザルの案についてご説明します。</p> <p>中学生と小学生を一体校舎とすることでいろいろな交流が生まれるなというのが私たちとしての実感です。</p> <p>配置のほうから説明していきますが、テーマは、この一体校舎でつくることによって、「児童・生徒」、「教師」、「地域」、この三つをそれぞれのレベルできちんとつなげていく設計をしていこうと考えました。</p> <p>大きな敷地の配置は、既存の中学校の校舎に対して、小学校を西側に配置していく計画により北側に大きなランドをつくることができます。一体としたときに最大のランドがとれるということと、内部で「繋がる」ということをテーマにしようと考えておりました。</p> <p>今現在あるホールを中心として、「交流プラザ」というものを形成して、学習空間を創造していこうということです。「児童・生徒を繋ぐ」については、上の学年を見習い、下の学年を見守って、そのことによってお互いに成長する。「教員を繋ぐ」については、小学校の成長の過程を中学校の先生と共有しながら、個に目を向けられるようにしよう。「地域と繋</p>

ぐ」では、周辺環境を変えずに地域に愛される学校をつくろうという3点で設計をしています。配置は既存の中学校の校舎にあるホールを中心として、「交流プラザ」を形成しようと考えています。この新しく大きく生まれる空間を小学校と中学校で共用していくことで交流をはぐくもうと考えています。

次に、「成長の過程を共有し個に目を向ける」ということで、職員室は、中心部分に小中一体として配置をしています。東門、西門から入っても、目が届く位置に置くということと、それぞれに近いというメリットがあると感じています。職員室から交流プラザに対して目の届く位置での交流が行えるようにしようと考えています。

「環境を変えずに」は日陰の影響範囲を最小にするために、神田川に日影を生むような形で、道路の中で日影がおさまるような校舎配置をしています。

全体の配置のイメージでは、小学校と中学校という形で、2階に職員室があり、その両サイドから中学生と小学生が別々の昇降口から入る形で考えて、保健室、主事室等で、登下校の姿に対して目が届くような配置にしています。地域に開放される学童クラブ、放課後の学童クラブと体育館に関しては、地域開放を容易にしようと考えています。

メディアセンターは、2階の中心部分、職員室をそのちょうど北側に配置にし、先生目が少し届く中でのメディアセンターという配置にしています。

小学校は1年生から6年生ということで、2学年ずつ配置をしています。南西面に南向きからやや西に振れたような形に教室の配置ができるという形になっています。小1と小2は庭がありますが、このクラスルームについては日影や通風について十分検討してほしいということをプロポーザルのときに言われています。

中学生は既存の校舎の形を生かした配置にしています。中学校の特別教室を中学校棟側に置いて、2学年で1つの学習コーナーを配置する形で小学校を配置しています。中学校の大きな体育館は移動しません。

小学校の教室は、真ん中にアルコーブ、小さなスペース、オープンスペースを持つというような教室づくりを行っています。小学校と中学校という独立した教室でご提案しています。2学年に1カ所、ワークスペース、学習コーナーを持ち、教室での活動のほかに、外に活動ができるような空間を設けて、通風、採光にも配慮しています。アルコーブや小部屋を持っているというのが特徴になっています。

中学校の教室は南面からやや東側に教室が向いていますが、風が抜け

るような形で、今の校庭側に抜けるような風の動きを生みたいということ、教室のそばに少人数で分かれて学習できるスペースをとること、あと、クラスにあるロッカーを外にも置くことができるような形で検討しています。このことによって、習熟度別で授業を分割したときに、自分の荷物を取りに入りづらいということが起こらないように配慮しています。

施設の開放は、段階的な3段階の開放ができるような形になっています。既存中学校の体育館の開放は、動線が長いこと、出入りのことを考慮し、十分対応できると思います。あとは開放ゾーンとして、交流プラザを中心として開放ができることを提案しています。

主事室と保健室から入ったところに交流ギャラリーをつくっています。陶芸室と多目的室を持っています。地域開放をして何かをつくることのできる創作テラスを1階におき、つくったものをギャラリーで飾る。生徒や児童の作品を飾ることのできるもので、このエントランス付近を飾ることができればと思っています。

上の階はメディアセンターです。図書を使った学習や分割授業のとき等に使える予備教室を持っているメディアセンターを一体的につくっています。下の階とが一体的、視覚的につながるような配置をしています。また、2階の小アリーナは、外階段での行き来や、中からの階段もすぐ行き来ができる位置にありますので、地域に使いやすい配置にしていると考えています。

防災系ですが、小アリーナと職員室を2階に置いて水害の対策に備えています。自立できるような施設ということで、なるべく内部での必要電力を小さくすることや、この場所で太陽光パネルを置いたりして、防災時に備えることを行っています。

配置に関しては小学校と中学校で別々にあったほうがいいのではないかと迷いましたが、まず1つには動線上ですが、反対側にある住宅のプライバシーや風通しなどでいろいろな問題を起こすであろうということ。また、トラック、グラウンドも小さいものが2つ、しかも異形のものになってしまうというところがあって、このあたりで一体校舎の案をとっていこうというご提案をしています。

環境については、屋上緑化を行ったり、太陽光パネルを行ったり、壁面の緑化を行ったりという形で、環境負荷をやわらげようと考えています。

教室の内部については、プロポーザルのときに上野先生から「黒板だけじゃないですね。よくわかっていますか」という質問を受けました。

	<p>十分承知しているつもりだったんですが、ちょっと学校らしく描いてしまったのが指摘を受けた点かと思います。</p> <p>先ほどご説明したアルコーブ状になっている教室のところに機械設備を入れて、教室が広がりのある空間としていこうという形と、自然通風、換気を生かしていく形と、緑のカーテンを使ったような形で、少しやわらかい風を内部に入れていこうということと、少し階高を抑えて、地域への日影配慮を行おうということを書いています。</p> <p>それで、先ほどお話しした環境を一体的につくっていこうということを書いてございまして、ちょうどこちらが南側から見たところの日射に配慮したファサードのイメージを出しております。</p> <p>プランを考えるのに、空気が流れ、風のスピードやエネルギー、CO<sub>2</sub>の排出が違うかというようなことを加味して、快適性と省エネルギー性が強く、ランニングコストのかからないものをご提案したいと思っています。</p> <p>新しくできる学校ですから長寿命化を図ろうということで、躯体と部材をきちんと分けようということを行っています。震災の影響も考慮して安全な学校にしてお届けしたいと思っています。</p> <p>以上が私どもがプロポーザルでご提案した案の概要になります。</p>
<p>教育改革推進課長</p>	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>再度、両先生から、日本設計さんの提案に対するコメントと、これから設計するに当たって、こういう点に着眼して設計をしてほしいということをお願いします</p>
<p>選定委員</p>	<p>校舎はもう少し学校運営の視点が出ないと、設計の内容の議論が難しいと思いますので、運動場について参考にお話します。杉並第十小学校が移転したとき、その前後に子どもたちの遊びの調査をやりました。危なくないように低学年と高学年、場所のゾーン分けをして安全を確保しましたが、そんなに大勢遊んでいなくて、そんなに危険そうでもない。提案して、3、4年生を活発に運動させるようにドッジボールのラインを引いたり、先生に休み時間に一緒に遊んでもらうとか仕掛けをしました。3、4年生が元気になって、遊ぶようになりましたが、次の年に5、6年生になってしまった学年が、遊べなくなってしまい、遊ぶ場所を公平に日によって交代にしましたが、そうしたらうまくいくかという、うまくいかなかったんです。</p> <p>その理由はさっきのゾーンを分けていたときは、低学年が中学年から遊びを学ぶことがなかなかできません。発達度合いが全然違うので、見てもらうというのはすごく重要です。危険ばかりを親の目や先生方のほ</p>

	<p>うから考えてしまっても、そういうことではないなど。ゾーン分けはとも慎重にやらなければならない。</p> <p>もう一つは、子どもたちが公平に曜日によって変えようと決めましたが、子どもは3カ月から半年ぐらい同じ遊びを毎日毎日継続するなかでだんだん遊びがおもしろくなったり、高まったりしていきますが、場所が2～3日で変わるので、全然遊びが継続しなくて、遊びが発達していきません。1日に15分か20分の遊びですが、継続している時間の環境もすごく大事です。そして体力の違う子どもの安全を確保するためのルール決めにどのレベルにするか、どういうことで補完するかということ。子どもたちの時間の継続を大事にし、グラウンドをうまく使いこなしていくルールを、安全性ばかりではなく、子どもの発達ということも考えていただきたいと思います。</p> <p>3～6年生になると、運動量もふえてきますが、危険な状況になると、上の学年が低学年をよけて転がって、安全確保をすとか、徐々に身につけていきます。最近の子どもは運動能力が落ちてきているので、大事にルールを決めていただいたらいいかなと思います。ルールを考える前に、私が前に調査をしましたことからご提案しました。</p>
<p>選定委員会委員長</p>	<p>では、4点申し上げます。1点目はプロポーザル・コンペティションというのは、提案を受けて、設計を任せてもいいなという設計者を選ぶコンペティションで、あの案を選んだわけではないんです。あの案は建築家としてどのぐらいの力がおありになるかということを見せていただいたので、あの案で決まっているわけではありません。これからこの設計者と忌憚なくいろいろやっていただいて、ベストなものをつくっていただくことが大事だということです。</p> <p>2点目は小中一貫校というのは普通の小学校、普通の中学校を設計しているわけでもなくて、一貫です。いろんな教育上のプログラムが非常に大事です。教科担任制、小人数習熟度別展開みたいなものが入ってくるとか、教育プログラム、またはアカデミックプランと言うんですけども、それと建築が合っていないと、あつと言うようなことが起こるんですね。それは十分学校側とも、教育委員会とも、杉並区が目指す小中一貫校のアカデミックプランって何なのというところをしっかりと据えないといけない、注意していただきたいことです。</p> <p>3点目は、小学校の3棟構成になっている隣棟間隔が大丈夫かなということ。審査員の中でも結構不安がありましたので、環境的なチェックはぜひよろしく願います。</p> <p>4点目です。既存の中学校のホールをどうやってリモデルするかとか、</p>

	<p>一部のスペースをある特別教室にどうやってコンバージョンするかとか、結構大事なことです。つまり、中学校の環境としてもかなり脱皮してもらいたいし、既存のストックをこれからの教育ニーズに合わせて、躯体は生かしながらも相当程度のところをリモデル、あるいはリファインしていくことも結構このプロジェクトでは重要な要素となっています。</p> <p>これは、この和泉地区の小中一貫校という問題を切り離しても、これから非常にたくさんある既存小学校、中学校のストックを現代化していくリモデル——つまり、耐震補強のときにバリアフリー化したり、現在の教育ニーズに合わせて、既存のストックをどうやってコンバージョンし、リファインしていくかという結構大きい問題提起のプロジェクトの要素がこの中に実は入っています。これから非常に大事な要素となるので、その新築のところを頑張るのもいいけれども、既存のところをどうやってリファインするのというところも私は注目していますので、そこもできればよろしくお願ひしたい。</p> <p>そのときに、極めて余計なことですけども、中学校の黒板はこれでいいのかというのも一度は考えてもらいたいと思います。以上です。</p>
教育改革推進課長	<p>どうもありがとうございます。これから設計していく上でかなり重要な視点をご指摘いただきました。</p> <p>では、会長、引き続きよろしくお願ひいたします。</p>
会長	<p>それでは、これまでの報告等につきまして、今後どのような学校にしたいのかということについて、基本設計の内容や設備的な面、また、設計業者の説明に対する質問等でも構いませんので、ご意見、ご質問等がございましたらお願ひします。</p>
委員	<p>今の先生のお話を聞いて、既存のものをどう生かして、残すものは何か私たちが考え、具体的に出していかなければいけないなと思います。</p> <p>リモデルするためにどう生かしていくか、その残すものは何でしょうということがちょっとわからないんです。</p>
会長	<p>中学校の既存校舎のリモデル、リファインということですね。</p>
委員	<p>ある場所だけを残すだけではなく、生かすということです。残すものをどう残したいかというコンセプトをはっきりしておかなければいけないと思います。それが設計にも生きると思います。</p> <p>もう1点は防災関係ですが、67カ所の震災救援所の一つにこの地区はなっています。小中一貫になると、ここはもうなくなってしまうので、近隣の高齢者の方々は、ここが震災救援所であれば避難すると考えていますが、なくなった場合、その方たちがもし住めない状態になった場合</p>

	<p>は、新しい学園に行くことになると思います。膨大な数の避難の方が出てきますので、考えておかないとまずいのではないかと思います。防災課の方に聞いたら、「まだ教育委員会と話し合っていないのでわかりません」と言われてしまったので、それではこちら辺から提示しておかなければいけないと思います。</p>
由井会長	<p>和泉中をどういうふうに改修していくのかということはこの間、現地視察に来た印象も含めて日本設計さんの話を伺います。</p>
日本設計	<p>先日、実は現地調査で見せていただきました。少し古くなった校舎、現在のニーズに合わないものをどうやって今のニーズに合わせていくかという点は、これは実は学校だけではなくて、いろんな都市の建物全般で大きな課題になっております。そういう意味ではすごく大きな意味を持っていると思います。</p> <p>まず、残す点で考えていかなければいけないと思われるのは、骨格の部分です。骨組みからスタートしながら、何を残していけるかをこれから探っていきます。</p> <p>先日、現地を見せていただいて、詳細な調査をかけております。その中で、これからいろいろ教育のニーズをいただいて、それに合うところ、合わないところを一つずつふるいにかけて今後検討していくステップになっていくかと思います。</p>
会長	<p>骨組みを残して、あと今、特別教室、教室も含めてどう使っているかというのはいろいろ議論がありますけれども、どれが一番いいのかはまたこれから考えていくということでしょうか。</p>
日本設計	<p>はい。</p>
会長	<p>2番目の防災の関係をお願いします。</p>
教育改革推進課長	<p>震災救援所の関係ですが、どうしても学校が何校か一緒になって大きくなります。今、区内の全小・中学校が震災救援所になっていますが、全部設置しなくてもできるように各学校の割り当てはなっています。今回の地震の関係で、今、防災課のほうで今回の教訓などを生かして、必要な物品の見直しを図っています。そういった観点からも、これまでよりは広めの防災倉庫ですとか、見直したものを設計に生かしていきたいと思っています。これから防災課のほうと詰めながら、しっかりとしたものをつくっていきたいと考えています。</p>
会長	<p>そのほかいかがでしょうか。</p>
委員	<p>この設計を見せていただいて、私はすごくいい案だなと思いました。和泉中は最初、川のほうに校舎があって、水害で水が入ったために校舎</p>

	<p>を引っ越した過程がありますので、このように設計したのだろうとは思いますが心配の一つです。</p> <p>あと、この設計はまだ確定ではないというお話でしたけれども、今、新泉小のほうになかよし学級がありますが、お話がなかったのでそれはどういうふうにお考えかなと思ったのと、2点です。</p>
会長	<p>まず、なかよし学級は、この図面の1階のホームというところです。今の和泉中の1年生のいるあそこの前ですね。オープンスペースも含めて、そこが特別教室です。</p>
委員	<p>わかりました。</p>
会長	<p>では、初めの地盤のことでと水害のことを説明してください。</p>
営繕課長	<p>東京都は、神田川の底を掘って水害対策をこれからやる予定です。もう一つは、この辺は地盤がやわらかくて、低いものですから、その分につきましては東京都の河川改修の設計もあわせませけれども、既存の和泉中の高さに合わせて、川沿いの新しく建てる小学校が床上浸水にならないような高さを設計するというのが基本になると思います。</p>
会長	<p>ほかにいかがですか。</p>
委員	<p>液状化対策はどのようにになりますか。</p>
日本設計	<p>極めて専門的な話になりますが十分対応していきたいと思います。</p>
委員	<p>川沿いですからね。ぜひお願いします</p>
営繕課長	<p>それは大きな宿題です。建物自体は基礎をきちっと打って、地盤沈下だとか、建物がどうこうという話はないと思います。ただ、これだけ大きい校庭を地盤改良して、災害時であっても完全に全く支障がないまでの地盤改良ということは、多少お金の面で、どこまでの工法をやるかは非常に難しいことです。全く何もしないわけにもいきませんので、どこまでやるかはお金の費用対効果を比較して、これから設計の中に入れていきたいです。きょう今の時点で校庭をどこまでいじるかはまだ決まっています。</p>
委員	<p>でも、予算がないのはわかりますが、そういうことに予算をかけてください。</p>
営繕課長	<p>問題は、ふだん今までも雨が降ったときに、この辺は少し水気があるので、すぐ校庭が使えないとか、ちょっと掘ってみると水が湧くということもあったと思いますので、基本、最低限ちゃんと直していかなければいけないと思います。ただ、本当の災害時にどこまでクリアするかというのは、もう少し設計の中で詰めたいと思います。</p>
委員	<p>わかりました。</p>

会長	ほかにいかがでしょうか。せっかく日本設計さんが来ていますから、わからないところはどうぞ質問していただけたらいいと思います。
副会長	きょうはありがとうございました。きょう上野先生のお話を伺いまして、本当にこれから私ども学校側も一緒になって、学校運営の視点をどこまで明確にするかが一番キーなのかなと思いました。特に、例えば英語室も、小学校1年から中学3年まで全部が小中一貫校で英語室でとしたときに、本当に2部屋で回していけるのかとか、交流プラザは人数がこれだけで吸収できるのかとか、あと、特別支援学級は、環境の刺激に非常に敏感なお子さんたちが、一番環境の刺激が多い場所で本当に大丈夫なのかとか、もう一回私たち自身が、今度、教育の専門家の立場からこうしてほしいというものをすり合わせて、先ほど村上先生がおっしゃってくださった譲り合いをどこまでどうしていくのか、そのためのスケジュール取りをぜひ教育委員会のほうには丁寧にしていただければありがたいなと思いました。
教育改革推進課長	それはお伺いして、そのとおりに進めたいと思います。
会長	よろしくお願いします。あとはいかがですか。
委員	学童クラブの位置ですが、今、2校を合わせると、学童さんを使っている子どもたちが100人以上、120人近くいると思います。現在、新泉小学校には校内に学童クラブがありますので、現行で51人ぐらいまで校内でとれるようになっていて、ややいっぱい近くいます。和泉小学校の学童さんは和泉児童館のほうで現行で60何名かいらっしゃるようなので、その辺の人数が、ここだけじゃなくて、多分、和泉児童館も並行して使っていくような形になるかと思うんですが、本当に学童クラブを使われる方は多いので、スペースの問題で、この大ききさで入るのかどうかということも考え合わせていただければと思います。
教育改革推進課長	児童館の関係につきましては、今おっしゃっていただいたとおり、多分ここの中だけで賄うのはちょっと厳しいかなと思いますので、新泉小学校の分をそのままこちらに移して、和泉児童館をどういう振り分け方にするのかわからないですが、いろいろこれから検討していくことになると思います。ただ、区の方針はまだ、学童をどうしていくかというのは、正直、大きなのを一つにまとめるか、幾つかに分散していくか、まだ煮詰まっていないところですので、その辺もこれの設計に合わせて所管と詰めながら、人数的に足りなくなるようなことはないようにだけはしていきたいと思っています。
会長	ほかにいかがでしょうか。

委員	<p>和泉小学校で芝生の管理をしていますグリーンプロジェクトのメンバーとして発言させていただきます。今回のプロポーザルは、グラウンドの部分に関しましては絵で見ると緑色になっているので、ああ、芝生かなという想像はできるんですけども、プロポーザルでほとんどグラウンド関係については具体的な提案がなく、広い敷地をとって自由にできるような提案になっています。これからこの協議会とかを通じて具体的な形がつけられていくのかなと思いますが、和泉小のグリーンプロジェクトとしては、今まで10年間培ってきたノウハウもありますので、今までの経緯とか、これから先を見据えての検討もしていますので、具体的な提案をさせていただきたいと思っています。</p> <p>今回から私、初めてこの会議に参加しましたが、仕事柄も専門的な芝生の仕事をしていますので、芝生について発言させていただきます。芝生というのは1年中使ってもらえるようなものではなくて、ある時期、休ませてあげなくてはいけない時期があります。そういうときに、学校運営上、校庭が使えない時期をつくってはならないということで、和泉小学校の場合は代替地で今までは中学校の校庭も使えましたし、屋上とか使っていました。今回の設計では中学校の校庭もなく、屋上もこの絵から見ると緑化をしてしまうということで、校庭と同じ状況をつくってしまうと、もうどこも使えない状態になってしまうので、それは避けたほうがいいかなと思っています。</p> <p>特に屋上の緑化は管理もすごく大変でなかなか素人ではできない。特に手入れをしないと荒れてしまい、デッドスペースになってしまうこともあります。私の個人的な意見としては、校庭の芝生がこれだけ緑化があるので、屋上のほうは代替のエリアとして何か運動のできるような施設にしたらいかなと考えています。</p> <p>それから、壁面緑化も、やはりで結構やられていますが、こちらも維持が大変です。植物を扱うというのはすごく手入れも大変なので、やはりにとらわれなくて、10年先、20年先もずっと維持できるような設備を考えたほうがいいかなと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。屋上については私も話そうと思っていました。この間視察にいらしたときに私からも運動場として使えそうなどころがあるとお話ししました。芝生に関しては全面芝生にするか、中学生が使うのはどうなるのかも考えなければいけないと思うので、これから調整が必要なことが多々あると思います。</p> <p>何か日本設計さんのほうからありましたらお願いします。</p>
日本設計	<p>今のお話のとおりです。</p>

委員	<p>今まで小学校の芝生ということで全面にしていますが、中学の児童も使うということ、特に中学の児童は主に部活動で校庭を使うと思います。芝生の上で野球をやるとか、テニスをやるのは難しいと思いますので、やはりそういうエリアは芝生でない部分をつくるべきだと思います。あと、陸上とかも芝生でないトラック部分を、競技用にするのか、練習用にするのかも考慮したグラウンド設計が必要になってくると思います。</p>
教育改革推進課長	<p>芝生をどうするかというのはこれからの一番の課題です。地面の部分に芝生をふやすのであれば屋上をうまく使えるように、屋上を運動場にするとか、学校でどういう使い方をするかを考えて十分検討していきたいと思います。ご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお話ししたいと思います。</p>
会長	<p>学校の使い方は第一優先ですが、和泉中は校庭も体育館も利用者が多く満杯ですので、そういうときにどういうふうに使っていくのかも考慮しなければいけません。多角的な研究が必要だと思います。</p> <p>ほかにはいかがでしょうか。</p>
委員	<p>ラーニングセンターについて、新泉小、和泉中が小中一貫になるときにしっかりと考えていただきたいと思います。</p> <p>もう一つ、ホワイトボードとかプロジェクター、無線LANについても必須かなと思います。</p>
教育改革推進課長	<p>今、ICTの研究指定校ですとか、いろいろ調べて、適したものを設置していくことになると思います。</p>
会長	<p>和泉中の校長として黒板から脱却するというのは大賛成です。</p> <p>ほかにはいかがでしょうか。</p>
委員	<p>先ほどの芝生の話なんですけれども、和泉のグリーンプロジェクトさんのほうから提言書をいただいて、教育委員会のほうには出させていただいておりますので、またいずれ公開という形でお話ししたいなと思っております。よろしくお話しいたします。</p>
教育改革推進課長	<p>この辺もこういうご意見をいただいておりますというのを踏まえて、この中でもちょっとお話ししていければと思っております。</p>
会長	<p>それでは、この辺でこの件はよろしいでしょうかね。</p> <p>それでは、事務局から何かございますでしょうか。</p>
教育改革推進課長	<p>&lt;資料3の説明&gt;</p> <p>表面は協議会での検討スケジュールです。裏面は具体的な工事の設計、どういう手順で進めていくかを記載したものです。</p> <p>先ほど上野先生からも、これはあくまでも設計者としての力量を試すためのものであって、具体的に決まったものではないというお話を伺い</p>

ました。確かに資質を見るためのプロポーザルではありましたが、日本設計さんからの設計が一番コンパクトにまとまっていたことから選定されましたので、こちらをベースにしながら、いろいろご意見もいただいて平面計画を検討し、大体10月ぐらいをめどに基本設計をまとめていきたいと思います。

その後ですが、新泉小、和泉小、和泉中、3校統合の学校となりますので、いろいろ定めていくことがございます。一貫校となりますので、通称名を定めていただくこととなります。

また、小中一貫教育校というのはまだ法令上、確固たる定義されたものはなくて、通称名はありますが、それぞれ中学校、小学校、そのまま存続するような形になります。新泉小と和泉小が統合になりますので、通称名のほかに条例上設置する名称をどうするかというお話もあります。また、校歌、校章などについても、後半部分でお話ししていただければと思っています。

また、裏面ではまだ日本設計さんと工期を詰める前に、区でつくったスケジュールとなっています。今年度、23年度の1月、2月あたりで大体1ヶ月半ほど埋蔵文化財調査があります。予備調査ですが、和泉中学校のグラウンド部分に校舎が建ちますので、大体6週間程度、90センチの幅の穴を掘って、埋蔵文化財が出るかどうか調査が必要になります。具体的な細かい日程、学校の活動等をお話しさせていただきながら決めていくこととなりますが、大体1カ月半ほど、中学校の校庭が使用できません。その間、例えば和泉小の校庭をどれくらい使わせていただけるのか、ほかの場所をどこか確保できるのか詰めていきたいと思います。

基本設計が終わりましたら実施設計、その後具体的な工事に入ります。今回の提案では24年12月から26年の1月まで校舎の改築工事ということで記載していますが、18ヶ月ぐらいで大丈夫だというお話もありますので、若干工期が変わることもあるかと思っています。

また、その間、和泉小学校については、プール側のなるべく芝生ではないところを車が通っていただくような形で、なるべく芝生と小学校の部分はそのまま使っていただくような形で今検討しております。また東京都が南側、河川工事を計画していますので、都と調整して、南側から通れるように検討していきたいと思います。

和泉小学校については、基本的に統合まで芝生も使いながら、既存のところでも過ごしていただくこととなります。中学校部分もかなり手を入れたいと考えてございます。1年ぐらいしっかり工期をかけて工事をしていきたいと考えています。

	<p>その間、中学校の生徒をどうするかの話になりますが、和泉小のところにプレハブを建てるか、新泉小のところにうまく活用するかという話になります。和泉小学校のところにプレハブを建てて、小学校の校庭が全部なくなるよりは、新泉小学校の教室数は今6学級で多少空室がありますので、1年間、中学校の方々が先行して新泉小学校のほうで1年間お過ごしいただく。そこで小中一貫校のプレといえますか、事前準備みたいなものを行っていただきながら、中学校をきちんと改修をして、きれいになった時点で新しく移っていただくようにできればなど、今は考えています。それにつきましてもいろいろご意見等をいただければと思っています。</p> <p>27年の1月ぐらいに小学校も中学校もある程度完成しましたら、いろいろ調整をして4月から新しい学校、3校一緒にと考えています。その後も校舎の解体、校庭整備等もあります。区ではそういった形で進めさせていただきたいと思っています。この辺につきましても、これから新しく入られる方々に対する説明ですとか、ご意見を聞きながら決めていきたいと思っていますので、よろしくお願ひしたいと思っています。</p>
会長	<p>今の説明に何かご質問等がございましたらお願いします。(なし)</p> <p>それでは、事務局から一応きょうの議案はこれでよろしいですかね。</p>
教育改革推進課長	はい、ありがとうございました。
会長	では、次回の予定についてご説明をお願いします。
教育改革推進課長	<p>第7回の協議会の開催は、23年6月6日(月曜日)に松溪中学校と天沼小学校の視察を予定しています。</p> <p>第8回協議会は6月24日(金曜日)午後2時から、和泉小学校の家庭科室で開催を予定しています。</p>
会長	<p>6月6日、6月24日、よろしくお願ひいたします。</p> <p>6月11日の説明会のお話をお願ひいたします。</p>
教育改革推進課長	今回のプロポーザルの提案内容とこれからのスケジュール等について説明会を行います。9日(木曜日)の2時から新泉小で、11日(土曜日)は和泉小・中の方両方含めまして和泉中で3時から行います。
会長	内容的には今の内容ですか。
教育改革推進課長	そうです。あとは質問をいただき質問に答えます。
会長	以上で終わりにさせていただきます。